



アドバイザー：
エランドール 代表
櫻井宏至氏



アドバイザー櫻井氏の こだわりが詰まったショップ

良質なVクラスをどのお店よりもリーズナブルに提案することをコンセプトに、正規ディーラーからの仕入れをメインとしてVクラス専門の販売を行なうエランドール。エアロなどを装着したオリジナルの中古車も好評だ

エランドール

東京都町田市小川1649-1
☎042-799-4321
<http://www.elandoree.co.jp/>
営業時間：9:30~21:00
定休日：なし

RV club

ミニバン&クロカンオーナーに捧げる情報

RV倶楽部

永久不滅のメルセデス・ミニバン Vクラスを買うための基礎知識を検証せよ!

TEXT & PHOTOGRAPHS BY KENJI IWATA

ラインアップ唯一のミニバンとして高い人気を誇るVクラス。多彩なシートアレンジ、広いスペース、リーズナブルな維持費など、国産ミニバンにも負けないくらいの魅力を多彩に装備する。そこで、これから狙い目をつけるユーザーに向けて、良質なW638ユーズドカーを専門として展開するエランドールにVの魅力と購入アドバイスをご指南頂くことにした。



多彩なシートアレンジや安定感ある走りが魅力
Vの大きな特長として挙げられるのは、余裕たっぷりのスペースに2+2+2というシートレイアウト。2、3列目のキャプテンシートはすべて脱着可能で、様々なアレンジが楽しめる。絶対的なパワーはないが、メルセデスらしい高速時の安定性は踏襲されている



オーソドックスなカラーが人気高
ボディ色に注目すると、ブラック、ホワイト、シルバーがベスト。逆に人気薄なのはラブラドルブルー、ジーコンブルーといったブルメタ系。カラーによっては中古車価格に差はある

多彩なラインアップを誇るメルセデスのなかで、唯一のミニバンであるVクラス。初代のW638は1998年に日本で販売がスタートしたが、当初はV230の1グレードのみで、V280がデビューしたのは1年後の1999年だった。ベースは商用車のVito（日本未導入）で、国産ミニバンを圧倒する室内スペースや2／3列目のシートアレンジの自由度、荷物積載能力の高さなどの評価は世界的に高かった。

さらに、スクエア感の強いエクステリアもメルセデスらしさを感じさせるスタイルとして人気を呼んだが、V280は2002年に生産が中止され、2003年には後継モデルとなるW639/Vianoへとそのポジションはバトンタッチされたのだ。

ただ、洗練されたデザインの与えられたVianoに対しては賛否両論で、いまとなってはメルセデスらしさという点でW638を支持する声が変わらず多いのも事実。しかも中古車となった現在では、車両価格も200万円を切ったものが主流とこなれてきた観があるだけに、今が買いといえるかもしれない。そこで今回はVクラス専門のユーズドショップであるエランドールの櫻

井代表に、W638/Vクラス購入のためのアドバイスをうかがってみた。

「こここのところVクラスの人気が高くなってきているのは事実で、タマ数自体も増えてきています。ただ、以前は程度のいいクルマが多かったのですが、人気の上昇に合わせて経年劣化や粗悪車も増えていきます。バンという物足りなさが逆に魅力といえる、直線基調のボディラインや国産モデルにはない高速での安定性の高さ、そしてウワサされているのは反対に故障も少ない」というW638の魅力を再認識するユーザーが増えているという。また「間違いないクルマ探しをするためにはどういった使い方をしたいのかというシッカリとした目的を持ち、冷静に考えて欲しい」と櫻井氏は語る。

走行距離よりも点検の記録が大事とのこと。距離が伸びていても、キチンと手が増えられば問題はなく、お目当ての中古車も点検前か点検・整備後なのかを確認するのが賢明だ。また、適正価格を自分で調べるなど、ユーザー自身での勉強も必要という専門家ならではのアドバイスを胸に、理想のW638を探してみよう!

前/後期型&両グレードの基本的な違いを検証する!

エンジン

V230は2294ccの4気筒DOHCエンジン、V280はVW製2791ccのV6SOHCを搭載。スペック的には143ps&21.9kg-mに対して、174ps&24.2kg-mとなり、走りは格段にV280が上だ



V230は非力で遅いという声もあるが、実際に試乗してみると「それほどでもない」という評価も多いという。すなわち、トレスアップベースならV280で十分といえる

インテリア

V230は樹脂丸出しのインパネ回りを採用しているのに対して、V280には高級感をアピールするウッドパネルが装備。V230の場合、後付けウッドパネルで演出したい



リアテーブルや冷蔵庫、シートヒーター、クルーズコントロールなどがV280に標準装備。V230はオプション設定となるので、ファミリーユースにはV280を推奨する

フロントグリル

前期モデルのフロントグリルはルーバー部分がブラックアウトされているが、後期モデルになるとボディ同色化され、より上質なスタイリングに見えるようになった



ドアハンドル

グリルと同様に、ドアハンドルもブラックからボディ同色へと変わっている。わずかな違いだがグレードアップ感はやや後期モデルの方が上。前期型は同色ペイントで対策するしかない



価格の内容を検討して見ることも大事なのだ

V230とV280の価格差は少ない。ただし、年式、ボディカラー、距離も同じなのに価格が全然違うことも。それは車両本体のみなのか、それとも諸経費などを含んだ乗り出し価格によって変わるため。その差が見極めるショップ選びも重要だ

中古車相場

V230 (前期) ¥1,300,000~1,800,000
V230 (後期) ¥1,700,000~2,300,000

V280 (前期) ¥1,400,000~2,000,000
V280 (後期) ¥1,900,000~2,500,000



エランドールでは、正規ディーラー車をメインに数多くのVクラスを取り扱うが、より付加価値を高めるためにドイツデザイナーとのコラボで作上げたエアロパーツやウッズステアリング/パネルを装備させたオリジナルのユースドカー販売にも取り組んでいる。人とは違ったVクラスを探している人にとっては、まさに見逃せない1台が見つかるかも!?

シート

V230は標準でファブリックを使うが、V280は本革シート仕様。形状には変わらないが、V230では高価なオプション設定であったので本革仕様は見つかりにくい。ここはオーナー好みの問題といえる



まずはココを見るべし。プロが教える購入前の5チェックポイントとは??



シフト時にショックが出ないか?

エンジンを始動してすぐにRやDレンジへとシフトした時にショックが発生するかをチェックする。その後、十分に暖気運転して同じようにRやDレンジでのショックを再確認。ショックが大きいうらみミッションに問題アリだ



メーター戻しを見分ける重要ポイント

シートやフロアカーペットの擦り切れ具合もよく見ること。こういった内装部分は簡単に修復できないVパートだけに、コンディションが分かるはず。大きくダメージがある割に走行距離の少ないものは…、まず怪しいといいたい



エアコンはちゃんと動いているか?

エアコンのチェックも見逃しがちなポイント。エアコンがキチンと作動しているかどうかは、コンプレッサーが回った時に出る「カチッ」という音で確認できる。ただスイッチを入れて涼しい風が出るからOKではダメなのだ



警告灯が点灯しないのはダメ!

エンジンを掛ける前に、警告灯がキチンと点灯するかも見ておこう。コンディションが悪いクルマの場合、チェックランプが点いているのを隠すために警告等の球を抜いてしまうなんていうこともあるそうなので、注意したい



雨漏りはここから起こるのだ

ルーフ部分に施されたシール剤が、日本の気候に合わないらしく、経年劣化によりヒビ割れてしまえば雨漏りまで起こることも。年式が古いモデルなら、こういった細かい部分の変化にも気を配る必要があることを覚えておきたい